

排出削減事業 計画

排出削減事業の名称：

大同化学工業における A 重油ボイラーから
都市ガスボイラーへの更新プロジェクト

排出削減事業者名：

大同化学工業株式会社

排出削減事業共同実施者名：大阪ガス 株式会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	大同化学工業株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	大同化学工業株式会社 奈良生産技術事業所
住所	〒639-1037 奈良県大和郡山市額田部北町 1021
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業 共同実施者名	大阪ガス株式会社

2 排出削減事業概要

2.1 排出削減事業の名称

大同化学工業における A 重油ボイラーから都市ガスボイラーへの更新プロジェクト

2.2 排出削減事業の目的

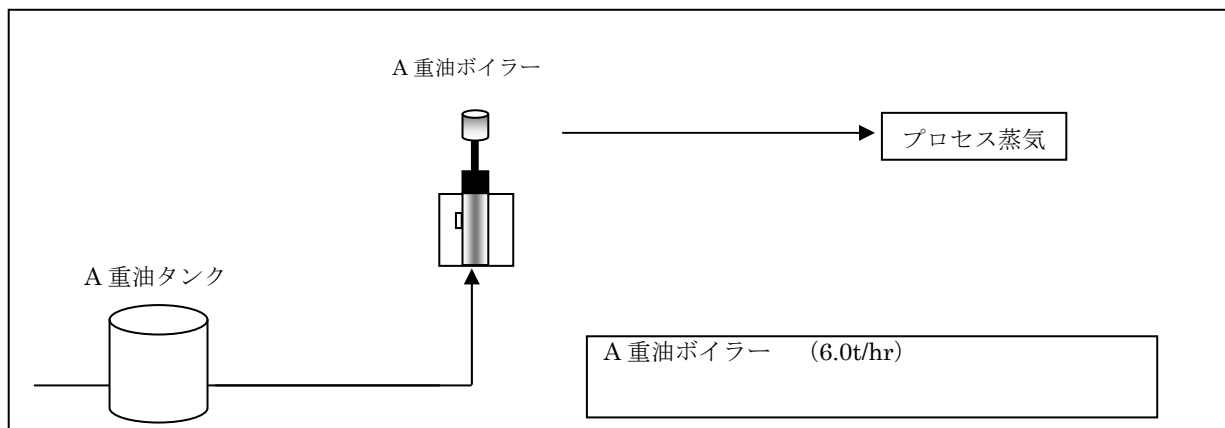
A 重油ボイラー1 台を都市ガスボイラー1 台へ更新する。ボイラー更新を実施することにより、ボイラーの高効率化による燃料使用量の削減及び低炭素燃料へのエネルギー転換によって、CO₂ 排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

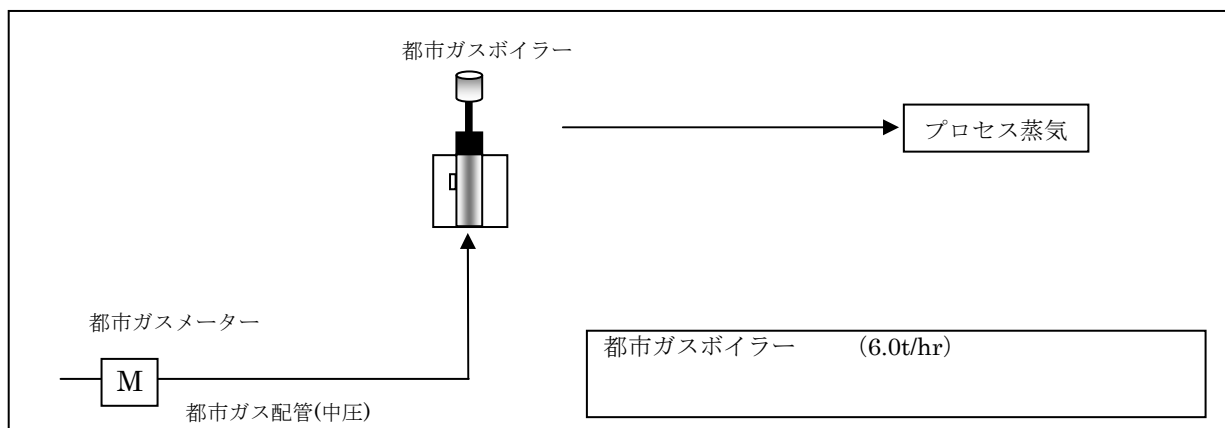
A 重油ボイラーを高効率の都市ガスボイラーへ更新することで燃料使用量を削減し、CO₂ 排出量を削減する。さらに、都市ガスは A 重油よりも単位発熱量あたりの炭素含有量が少ないため、ボイラーの燃料を都市ガスに転換することにより CO₂ 排出量を削減する。

(備考)A 重油ボイラーから都市ガスボイラーへの更新プロジェクトの概要

(排出削減事業実施前の設備概要)



(排出削減事業実施後の設備概要)



3 排出削減量の計画

年	ベースライン排出量 (tCO2/年)	事業実施後排出量 (tCO2/年)	排出削減量(tCO2/年)
2008 年度			
2009 年度			
2010 年度			
2011 年度	225.7	164.8	60
2012 年度	1,501.7	1,096.7	405
合計	1,727.4	1,261.5	465

4 国内クレジット認証期間

事業開始日 2012 年 2 月 6 日
終了予定日 2013 年 3 月 31 日

5 活動量・原単位

5.1 活動量・原単位

活動量、原単位は採用しない。

5.2 活動量の採用根拠

活動量、原単位は採用しない。

6 温室効果ガス排出削減量の算定

6.1 排出削減事業に適用する排出削減方法論

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

6.2 選択した方法論がこの排出削減事業に適用できる理由

- 本事業は、既存ボイラーよりも高効率のボイラーに更新する事業であり、条件 1 を満たす。
- ボイラーの更新を行わなかった場合、既存設備を継続利用する方針であったため、条件 2 を満たす。
- 更新後にボイラーで生産した蒸気は、自家消費するため、条件 3 を満たす。

6.3 事業の範囲（バウンダリー）

A 重油ボイラーから都市ガスボイラーに更新するボイラー及びボイラーから蒸気の供給を受ける設備

6.4 ベースライン排出量の算定

(1) ベースライン排出量の考え方

本事業のベースラインは、都市ガスボイラーへの改修・更新を行わずに、A 重油ボイラーとして利用し続けた場合の温室効果ガス排出量である。

(2) ベースラインエネルギー使用量

方法論 001 より、ベースラインエネルギー使用量は以下の式に表される。

$$Q_{fuel, BL} = F_{fuel, Pj} \times HV_{fuel, Pj} \times \varepsilon_{Pj} \times \frac{1}{\varepsilon_{BL}}$$

$$= 483.111 \times 44.8 \times 82.8 \times \frac{1}{82.7}$$

$$= 21,699.5 \text{ (GJ)}$$

$Q_{fuel, BL}$: ベースライン燃料(A 重油)使用量(GJ/年)	21,699.5 GJ
ε_{BL} : 更新前ボイラー効率(%)	82.7 % (高位発熱量)
$HV_{fuel, Pj}$: 事業実施後(都市ガス)の単位発熱量(GJ/千 N m ³)	44.8 GJ/千 N m ³ (高位発熱量)
$F_{fuel, Pj}$: 事業実施後(都市ガス)使用量(千 N m ³ /年)	483.111 千 N m ³ /年
ε_{Pj} : 更新後ボイラー効率(%)	82.8 % (高位発熱量)

(3) ベースライン排出量

方法論 001 より、ベースライン排出量は以下の式に表される。

$$EM_{BL} = Q_{fuel, BL} \times CF_{fuel, BL} \times \frac{44}{12}$$

$$= 21,669.5 \times 0.0189 \times \frac{44}{12}$$

$$= 1,501.7 \text{ (t-CO2/年)}$$

EM_{BL} : ベースライン排出量(tCO ₂ /年)	1,501.7 tCO ₂ /年
$Q_{fuel, BL}$: ベースライン燃料(A 重油)使用量(GJ/年)	21,669.5 GJ/年
$CF_{fuel, BL}$: A 重油の単位発熱量あたりの炭素排出係数(tC/GJ)	0.0189 tC/GJ

6.5 リークエージ排出量の算定

本事業で方法論 001 が規定するような温暖化ガス排出及び申請者が主張する排出削減量の 5%を超える顕著かつ計測可能なバウンダリー外での温暖化ガス排出は特定されない。

6.6 事業実施後排出量の算定

方法論 001 より、事業実施後排出量は、以下の式に表される。

$$EM_{Pj} = F_{fuel, Pj} \times HV_{fuel, Pj} \times CF_{fuel, Pj} \times \frac{44}{12}$$

$$= 483.111 \times 44.8 \times 0.01382 \times \frac{44}{12}$$

$$= 1,096.7 \text{ (t-CO}_2\text{/年)}$$

EM _{Pj} : 事業実施後排出量(tCO ₂ /年)	1,096.7 tCO ₂
F _{fuel,Pj} : ボイラー事業実施後(都市ガス)使用量(千 N m ³ /年)	483.111 千 N m ³
HV _{fuel,Pj} : 事業実施後(都市ガス)の単位発熱量(GJ/千 N m ³)	44.8 GJ/千 N m ³ (高位発熱量)
CF _{fuel,Pj} : 事業実施後(都市ガス)の単位発熱量あたりの炭素排出係数(tC/GJ)	0.01382 tC/GJ

6.7 温室効果ガス排出削減量の算定

$$ER = EM_{BL} - (EM_{Pj} + LE)$$

$$= 1,501.7 - (1,096.7 + 0)$$

$$= 405 \text{ (t-CO}_2\text{/年)}$$

ER : 排出削減量 (tCO ₂ /年)	405 tCO ₂
EM _{BL} : ベースライン排出量(tCO ₂ /年)	1,501.7 tCO ₂
EM _{Pj} : 事業実施後排出量(tCO ₂ /年)	1,096.7 tCO ₂
LE : リークエージ排出量(tCO ₂ /年)	0 tCO ₂

6.8 追加性に関する情報

6.8.1 基本的情報

排出削減事業の実施は、法的な要請に基づくものか？	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
設備更新を行わなかった場合、既存設備は継続して利用できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 利用できる <input type="checkbox"/> 利用できない

注) ここでいう「法的な要請」とは、法令等の規定に基づき、設備更新等を行った結果、排出量が削減される場合における、当該法律を指す。

6.8.3 投資回収に関する情報

投資回収年数	40.5年
--------	-------

6.8.4 その他の障壁に関する情報

なし

7 モニタリング方法の詳細

7.1 モニタリング対象

項目	定義	単位	排出削減量算定時に使用した値	モニタリング方法	記録頻度	データ記録方法 (電子媒体・紙媒体)	データ 保管 期限	備考
$F_{\text{fuel},Pj}$	ボイラー都市ガス使用量	Nm ³	都市ガスメーター値 483,111Nm ³	都市ガス会社の請求書に記載された都市ガス使用量を記録し、その値を標準状態ボイラーに使用しているガス量は請求書上の3つのメーター番号のうち、51-00-330-00-0710の値である。(換算係数=1.045で除して標準状態に換算する。	月	紙媒体	5年	
$HV_{\text{fuel},Pj}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/千 N m ³	44.8	国内クレジット制度のデフォルト値	年	紙媒体	5年	
ε_{BL}	燃料転換前 ボイラー効率	%	82.7 (高位発熱量)	カタログ値	—	紙媒体		
ε_{Pj}	燃料転換後 ボイラー効率	%	82.8 (高位発熱量)	カタログ値	—	紙媒体	5年	
$CF_{\text{fuel},BL}$	A 重油の単位発熱量あたりの炭素排出係数	tC/GJ	0.0189	国内クレジット制度のデフォルト値	年	紙媒体	5年	

$CF_{fuel,Pj}$	都市ガスの単位発熱量 あたりの炭素排出係数	tC/GJ	0.01382	国内クレジット制度のデフ ォルト値	年	紙媒体	5年	
----------------	--------------------------	-------	---------	----------------------	---	-----	----	--